

平成27年度京都府立東宇治高等学校学校経営計画（実施段階）

平成28年3月

（スクールマネジメントプラン）

| 学校経営方針(中期経営目標) | 昨年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点(短期経営目標) |
|---|---|--|
| <p>知・徳・体の調和のとれた生徒を育成し、府民の信頼に応える学校づくりを推進する。</p> <p>(1) 一人ひとりを大切に、個性と能力を最大限伸ばし、学力の向上を図るとともに希望 進路の達成を目指す。</p> <p>(2) 規範意識や人を思いやり尊重するなど、豊かな人間性をはぐくむ。</p> <p>(3) 社会の変化に対応する力と、よりよい社会の構築に貢献できる力をはぐくむ。</p> <p>(4) 保護者・地域との連携を深め、安心・安全な選ばれる学校づくりを推進する。知・徳・体の調和のとれた生徒を育成し、府民の信頼に応える学校づくりを推進する。</p> | <p>(1) 落ち着いた雰囲気の中で学習活動、諸行事等が行われ、大半の生徒が規律ある学校生活を送ることができた。</p> <p>(2) 平常の授業を中心として、進学講習、個別指導等により、希望進路の実現のための学力向上を図った。今後も、最後までチャレンジ精神をもって頑張れる生徒の育成を継続し続ける必要がある。</p> <p>(3) 国際交流や異文化理解学習を通じて、国際社会に目を向け、国際感覚を身につける学習を推進した。</p> <p>(4) 学校説明会、ホームページ等を通じて、広報活動を組織的かつ積極的に行うことで、中学校や地域社会から本校に対する理解を得られた。</p> <p>(5) 家庭学習時間の増加や学力向上に向け、分掌・教科等における指導体制の強化と、授業公開(授業参観)、授業評価等を活用し、教員一人ひとりの授業力の一層の向上を図る。</p> | <p>(1) 学習指導要領の趣旨を踏まえるとともに、土曜授業等の機会を生かし、授業、部活動で、最後まで「やり切る」指導を徹底する。また、生徒に文武両道を追求させることで、生徒の可能性を最大限伸ばし「学ぶ集団」づくりを行う。</p> <p>(2) 全教職員の共通理解のもと一致した指導を行い、規律ある集団の維持を図る。また生徒の希望進路実現に向け、授業改善を進めるとともに、きめ細やかで丁寧な指導を通じて生徒全員の学力を向上させる。</p> <p>(3) 国際理解教育や伝統文化への関心を高めるなど本校の特色化を一層推進するとともに、情報発信の機会を増やし、地域及び小・中学校との連携を深めることにより、地元で信頼され、中学生のあこがれる学校づくりを進める。</p> |

最重点目標

<分掌・領域> A:十分達成できた B:ほぼ達成できた C:あまり達成できなかった D:ほとんど達成できなかった

| 領域 | 最重点目標 | 具体的方策・数値目標など | 評価 | 成果と課題 |
|-------|------------------------------------|--|----|--|
| 組織・運営 | 学校評価の充実 | 学校経営計画の分掌・教科の重点目標と具体的方策・数値目標を昨年度よりさらに精選・焦点化させ、全教職員による自己評価を継続定着させる。また、外部からの学校経営に対する評価、批判を受け止め、改善を進める体制をつくる。 | B | 分掌・教科の重点目標を精選・焦点化させる形で継続できた。また、全教職員による最重点目標についての自己評価を実施した。 外部に提示する学校経営計画は、各分掌・各教科の最重点目標に絞って項目を精選して提示し、評価を受ける形とした。 |
| 教務部 | 授業の改善と学力の向上 | 授業公開週間を利用し、教科内研修を充実させ、「わかる授業」への工夫と授業改善をはかる。基礎学力の充実させ、学力不振生徒の減少をめざす。 家庭学習時間の確保により、自学自習力をつけさせることをめざす。 | B | 教科内研修を実施することで、授業に関する指導内容など、教科内で話し合いを持つことは意義のあることだと思われる。しかし、少人数の教科や講座展開のみの教科に対する研修が課題である。 携帯電話の普及により、家庭学習時間の確保は課題である。やはり目標を明確にさせる指導、学習へのモチベーションの持ち方が課題である。いずれも教科や担任との連携が必要である。 |
| 総務企画部 | 異文化理解に関する事業を実施し、広い視野・国際感覚を身につけさせる。 | 国際的な学校交流を行い、多くの生徒に対して学習する機会を設ける。また、日本の伝統文化を学ぶ講座を開設し、伝統文化への理解を深め、海外へ発信する力を育む。 | B | 今年度は、例年よりも国際交流の回数も多くなったが、生徒会や該当クラス、先生方の協力により無事行うことができた。今後その成果をいかに宣伝するかという課題は残った。 |

| 領域 | 最重点目標 | 具体的方策・数値目標など | 評価 | 成果と課題 |
|-------|---------------------------------|---|----|--|
| 生徒指導部 | 安全で落ち着いた学習環境をつくる。 | 校内巡回や立門指導、その他あらゆる機会を通じて積極的に生徒に声をかけ、挨拶や身だしなみについての指導を日常的に行う。 | B | 落ち着いた雰囲気は確保できたが、教員の目の届かないところでマナーやモラルを損なうような行動が一部の生徒に見られた。 |
| 進路指導部 | 希望進路の達成 | 適切な情報を元に学年部と連携してきめ細やかな指導を行い、現役での希望進路を達成させる。 | B | 一般入試の中期・後期日程で合格を決めてくる生徒も増え、希望進路の達成はほぼできたと言えるところまで来た。やり遂げる意識の育成もほぼ達成できたかと思う。 学年部との連携に於いては齟齬も多々見られ、進路学習を効果的に利用する点に課題が残る。また、希望進路の選択が消去法的にならないようにするための検討が必要と思われる。 |
| | 希望の進路に向けた努力をやり遂げる意識の育成 | 進路学習を通じて、希望進路へのアプローチ法を学習させ、進学講習による学力の維持・伸長を図ることにより、希望進路に向けた努力を維持させていく。 | B | |
| 保健部 | 教育相談の充実 | 健康上配慮の必要な生徒や、不登校傾向など、様々な課題を持つ生徒に対する相談活動を実施する。緊急性・必要性を見極め、年間25回のカウンセリングを有効活用する。 | B | 担任、養護教諭、スクールカウンセラーが連携し、不登校傾向を持つ生徒及びその保護者と特別支援が必要な生徒について相談活動を実施した。また、特別支援が必要な生徒に対しては地域支援センターうじとの連携も図った。 |
| 図書部 | 読書活動の推進 | 各教科と連携し、図書の貸出を促進する。年間貸出冊数0冊の生徒の割合を全体の30%未満とし、1人あたりの年間貸出冊数8冊以上を維持し、可能な限りその上積み努める。 | B | 2月末現在で目標はほぼ達成できた。1人あたりの貸出冊数は、9.8冊(昨年度9.4冊)と僅かであるが増加している。また、年間貸出冊数0冊の生徒の割合は21.8%(昨年度24.9%)と、減少している。今後の課題としては、貸出冊数をさらに増加させ、また、貸出冊数0冊の生徒の割合を減少させることである。 |
| 第1学年部 | 学力の伸長 | 常に緊張感を持たせ、自ら学ぶ姿勢を維持させる。毎日学習することが当たり前である雰囲気をつくり、家庭での学習習慣を確立させる。 | B | 入学当初に予想していたよりは、学習に励み、クラス・個人差によるばらつきはあるが、よく努力した。ただ、学年全体を見ると、家庭での学習習慣の確立など、まだまだ不十分である。 |
| 第2学年部 | 向上心の持続 | 学習活動・部活動を主とした学校生活全般の中で、希望進路の実現と個性の伸長に向け、常に変わろうと努力する姿勢を育てる。 | B | 学習活動でも部活動でも真剣さに欠け、今ひとつパワー不足を感じる。引き続き、生徒の意欲を喚起しつつ、進路実現に向けてチャレンジ精神で頑張れる生徒を育てる。 |
| 第3学年部 | 進路実現に向けて、自律的に行動し、最後まで支えあう集団となる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自ら学習を計画し取り組む自律的姿勢を育てる。 ・模試結果などを利用した、客観的で的確な進路指導を行う。 ・学習集団として互いを助けあえるHRの雰囲気を作る。 | C | 生徒は、それぞれの進路目標に向けて、健康管理を行い前向きに学習に取り組んだ。模試なども積極的に受けて、進路指導に活用できた。ただ一部には、自分の実力を客観視できなかったり、進路の決まった生徒にゆるみが見られなどした。 |
| 事務部 | 安心安全な学校づくりの推進 | 各分掌・教科と連携を密にし、生徒が充実した高校生活を送れるよう施設設備の維持管理を行う。 | B | 定期的な点検や分掌間の連携により、迅速な対応ができた。 経年劣化により使用に支障を来している施設設備への対応が課題である。 |

| 教科 | 最重点目標 | 具体的方策・数値目標など | 評価 | 成果と課題 |
|------|--|---|----|---|
| 国語 | 第1・2学年においては、古典分野の基本事項の学習を徹底させる。第3学年においては、古典分野の基本事項の習得を完成させるとともに、自分で文章を読解できる力の育成を目指す。 | 国語総合ならびに古典の授業において、古語テストを週一回実施する。また、文法テストを逐次実施する。府立高校実力テスト、模擬試験、センター試験などにおいて偏差値が50以上の生徒数を増加させる。 | C | 古語テストや文法テストは再テストなども含めて定期的に実施することができた。しかし、古典の読解能力が飛躍的に伸びたとは思えない。 |
| 地理歴史 | 生徒の主体的な学習につながるように、生徒の興味・関心・意欲を高め、自学自習する力を身につけさせる。 | 画像やエピソード、視聴覚教材などを工夫し、わかりやすい授業で各科目の基本事項を理解させる。また生徒の興味関心を引き出すことで、得意科目として高得点を獲得する成績上位層の数を増やし、成績下位層をできる限り少なくし、底上げを図る。 | B | 基本事項を理解させる授業はほぼ行っているが、画像、視聴覚教材の利用については小教科、担当者によりまちまちである。視聴覚機器の扱いについて、各教員が習熟していく必要と共に、ソフト面の充実を図る必要がある。 |
| 数学 | 数学的な思考を身につけさせる。 | 公式の成り立ちや公式どうしの関係を知る事で、数学の構造を知り、幅広い思考能力を身につけさせる。 | B | B |
| | 進路実現のための力をつけさせる。 | 数学の入試問題レベルの問題を解かせることで、進学に必要な力を付けさせる。 | B | |
| 理科 | 自然科学に興味・関心を持たせ、科学的な自然観を身につけさせる。 | 体験的活動の充実化に向けて、実験実習、演示実験や視聴覚教材の活用などを積極的に取り組む。 | B | 育を実践することができた。さらに充実させていきたい。 ・単位数の少ない科目は、引き続き実験実習時間の確保に難しさがあり、教科内容の精選とともに、教育課程における理科の単位数確保に向けて引き続き検討していきたい。 |
| 芸術 | 芸術の幅広い諸活動を通して、芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばす。 | 表現の幅を広げ、鑑賞の能力を伸ばすために、基礎基本となる技術の習得を重点的に行うとともに、芸術科相互の実践研究の交流を充実させる。 | B | ・基本的な技術水準への到達をめざす指導を行う一方で、生徒一人一人の技術の格差と進捗状況を正確に把握し、年間を通して適切な指導、助言を行った結果、一定の成果が見られた。鑑賞指導の充実を図っていくことが継続して必要である。 |
| 保健体育 | ・体力と精神力の向上 ・規範意識を尊重する態度を養う | ・ウォーミングアップや持久的トレーニングを通して体力と精神力の向上を図る。 ・授業、集団、種目のルールを理解し、行動できるようにする | B | 年間を通して、トレーニング的要素を含むウォーミングアップを実施することにより、体力、精神力の向上が計れた。 ルールやマナーを守り、協力して活動できた。 |
| 家庭 | 自立して家庭生活を営むための基礎的・基本的な知識と技術を身につけさせる。 | 実験・実習など実践的な学習を通して、生徒の興味・関心高め、理解を深められるようにする。 | C | 家庭科の実習室の工事で、実験・実習を実施する時期が決めるべく苦慮した。来年度は計画的に実施して生徒の興味・関心高めたい。 |
| 英語 | 英語によるコミュニケーション能力を強化する授業改善の取組を行う(英語教育強化地域拠点校事業含む)。 | 全学年の4技能のテストを以下のとおり実施する。 ・リスニングテスト・リーディングテスト(初見)は年間4回以上 ・スピーキングテスト・ライティングテストは年間2回以上 | C | リスニングテスト・リーディングテストは、定期考査ごとに実施している。スピーキングテスト・ライティングテストは、学期に1回ずつ実施した学年もあるが、実施していない学年もあった。 |
| 情報 | 高度情報化社会の中にある課題を認識し、情報機器を活用した解決の方法を考えさせる。 | 新しい情報活用手段のあり方について、教科を情報科だけでなく、他教科とも連携をはかり、生徒と教員のスキル向上も目指す。 | B | 急激な情報機器の進化にもなつて最初に手にする情報デバイスがスマートフォンに変わりつつある中で、従来型の取り組みだけでなく、その変化に対応した授業展開がますます重要となっていく。基本的スキルの習得だけでなくスマートフォンを活用しパソコンと連携した、課題作成にも引き続き取り組む必要がある。 |

| | |
|-----------------|---|
| 学校関係者評価委員会による評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・東宇治は生徒一人一人を大切にしている。今後も中学生、保護者が安心してめざす学校づくりを堅持・努力してほしい。 ・英語教育、国際理解教育や伝統文化教育など、学校の特色を明確に打ち出すこと、また、入学から卒業までに生徒の学力等を伸ばすことが大切。 |
|-----------------|---|

| | |
|---------------|--|
| 次年度に向けた改善の方向性 | <ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒の希望進路実現に向け、学力充実・向上をめざす組織的な指導・取組を行なう。新学習指導要領の実施、土曜授業の研究指定等を生かし、授業や部活動で、生徒一人ひとりの可能性を最大限伸ばす。 (2) 規律ある集団を維持し、規範意識を向上させるため、全教職員が共通理解のもと、一致した指導を行なう。 (3) 英語教育、国際理解教育や伝統文化への関心を高めるなど特色化を推進するとともに、地域、小・中学校との連携を深め、地元信頼され中学生のあこがれる学校づくりを推進する。 |
|---------------|--|